



北山杉・北山丸太とは

北山杉は室町時代 応永年間(1394～1427)頃から作り始められたといわれ、この北山杉の皮をむき、加工してつくられる北山丸太は千利休により完成された「茶の湯」文化を支える茶室や数寄屋の建築用材として頻りに用いられるようになり、今日まで、600年の歴史を刻んでおります。

この間、先人のたゆまぬ努力と叡智によって、今日の一貫した育林、加工の技術が培われてきました。

桂離宮や修学院離宮、鳥原角屋等は北山丸太を使った数寄屋づくりの代表的な建築です。

一般的に北山丸太といわれるものには、磨丸太、人造絞丸太、天然出絞丸太、面皮柱、タルキなどがあり、その特色はとりわけ材質が緻密で木肌が滑らかで光沢があり、干割れが生じにくい等があげられます。

北山丸太の優美な特質は、和風建築にはもちろんですが、現代建築にもよく調和し、その優雅な風趣は人と自然を近づけ、自然感を室内空間にもたらし材料として様々な用途に使用されています。その表情の多様な美しさやみずみずしさはきっと皆さまを引き込むことでしょう。

北山丸太はまさに600年の歴史の重みを感じさせる京都の伝統工芸品であり、「京都府伝統工芸品」(京都府)や「京都市伝統産品」(京都市)の指定を受けています。

また「北山丸太」は「北山杉」とともに地域団体商標を取得し、更なる品質向上を図り、ブランド化をすすめております。

北山丸太の詳細紹介



真直ぐに育ちその年輪は緻密で、皮をむいたその木肌は非常に滑らかで独特の優美な色艶があります。

北山丸太ブランドラベル・商標シール

〈北山丸太商標シール〉



〈北山丸太ブランドラベル〉



平成18年12月に地域団体商標の登録を行い、以降、商標シールを貼付したものを出荷することでブランド化を進めています。

さらに現在では、一定品質以上の北山丸太にはブランドラベルを貼ることで、品質の保証や向上に努めています。

北山丸太の優良品に貼付されています。

北山丸太の評価の要素(一例)

	天然出絞	天然絞	人造絞丸太	人造変絞	磨丸太
年数*	30年以上	40年以上	25年以上	20年以上	25年以上
元末の直径差(末落ち)*	1.5cm程度	1.5cm程度	1.5cm程度	2.1cm程度	1.5cm程度
通直性	直材であること(出腹曲がりの木は使用しにくい)				
絞の入具合	全体のバランスがよい		天然絞に近い	天然出絞に近い	
表皿の状態	エクボ、葉節等の難点が少ない ※特に枝締本仕込みの製品は特上品である				
表皿の光沢	色むらなどがなく、木本来の色が出ている				
丸太の形状	芯が真ん中にあり、木が丸く円に近く、前後左右にたわみがない				
乾燥度	全体にかけて均一に乾燥している				
その他	晩秋から初冬にかけて伐採したもの(本仕込は8月中旬頃)				

※長さ3m φ120の場合

美しさだけではない、北山丸太がもつ力強さ

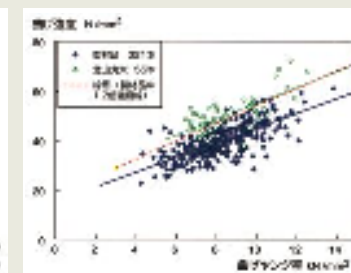
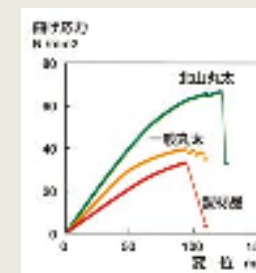
北山丸太とは本来、数寄屋建築や床柱など木の肌の光沢や模様(絞り)を楽しむもので、一般的な木材の様な構造材としての利用というよりは、意匠材(インテリア素材)としての機能をもった素材です。しかし近年、構造材としての利用価値も注目されてきています。

製材品や一般丸太と比較して北山丸太は曲げ性能に優れています。

曲げ強さは製材品の1.8倍
曲げヤングは製材品の1.35倍

- ・曲げ応力は落ちかけた後、再び上昇する状況も認められます。
- ・屈服破壊応力・縦圧縮ヤングは製材品の1.2倍の強度が認められました。

(京都大学生存圏研究所の強度試験結果による)



北山丸太の種類



北山天然出絞丸太

木肌に自然にコブ状・波状の凹凸（絞り）ができたもので、品種や地質、日当りによって様々な表情がみられます。主に床柱として使用されています。



北山ちりめん絞丸太

天然絞丸太の一種です。出絞はコブ状・波状に突出しているのに対し、この品種は溝のような絞りが特徴で、非常に希少な品種です。



北山人造絞丸太

木肌に波状に出る天然絞りを人工的につけた商品です。伐採の2~3年前に簪状の材料を幹に巻き付けて絞り模様をつけたもので、床柱として一般的に使用されています。



北山タルキ

北山丸太の垂木（タルキ）用材。無地が特徴で元末の差があまりなく、茶室や数寄屋住宅に利用されますが、最近では手すりやルーバーなどの装飾用としても使用されています。



北山面皮柱

磨丸太を手斧（ちょうな）などで製材し、丸太の木肌を残しながら木目の美しさを引き出したものです。



北山磨丸太

北山丸太の基本製品です。材質が緻密で節がなく木肌はなめらかで光沢があり、また通直で真円に近く元末の差が少ないのが特徴です。



洛北

北山丸太の新しい用途として腰板・壁板用に開発された製品です。木肌と木目の両方の美しさを持ち、公共施設から店舗、住宅など幅広く用いられています。



京都北山杉の里総合センターの床の間

床柱の取り替えができます。



北山天然出絞 北山人造絞 北山磨丸太 赤松



北山丸太の天日乾燥

本仕込み

伐採する前の冬、枝を6割程度落とし、成長をおさえ年輪を密にします（枝締め）。そして夏場、杉の根元を伐り、枝葉をつけたまま山で皮をむき、立ち木にかけて乾燥させます（本仕込み）。これにより表面につやと粘り、優美な色調があり、かつ割れにくい丸太ができます。

使用事例

北山丸太のやさらかな質感を活かして、オリジナルな空間づくりが可能です。



北山磨丸太を使用したリビング ※株式会社竹内工務店提供

方立柱に北山磨丸太を使用した例

※株式会社竹内工務店提供



北山杉の行灯



北山磨丸太を構造材として使用した例 ※株式会社竹内工務店提供



北山磨丸太・北山タルキを使用したテラス
※撮影場所：京都北山杉の里総合センター



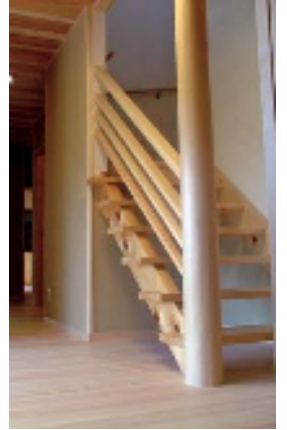
北山タルキを使用した階段 ※株式会社竹内工務店提供



北山杉の行灯



北山磨丸太を使用したオフィスリフォーム ※株式会社里仁舎協力



北山磨丸太を使用した階段
※株式会社竹村木材店提供



北山磨丸太を使用した壁面意匠 ※株式会社里仁舎協力



京の彩り
※株式会社山崎燈供



北山磨丸太を使用したオフィスリフォーム
※株式会社里仁舎協力



北山タルキを使用した照明意匠 ※撮影場所：京都北山杉の里総合センター



洛北の使用例 ※撮影場所：京都北山杉の里総合センター



北山杉の行灯